

天神様や八百万の神々が 私達を護って下さいます

親鸞聖人の書かれた現世利益和讃げんぜりやくわさんという十五首の歌があります。十一首目に「天神様や八百万の神々を善鬼神と言います。すべての善神様が念仏の人を護ります」とあります。

神社の思想は人が亡くなると基本的には悪霊になると考えられています。魂を鎮めるという意味で鎮魂と言いますが、鎮とは「上から重たいものを押さえつけて動かなくさせる」という意味があります。つまり、出てこないでほしいと思って、いろいろと神様が喜ぶものをお供えして、魂を鎮めているのです。

阿弥陀仏の教えに出遭って、なもあみだぶつを唱えている人に対して、八百万の神々は、崇ったり、悪霊となったりついたりはない。善神となって私達を護って下さっているのだと、親鸞聖人は喜んだのでした。

神社にお参りするときに、「どうか護って下さい」とか「どうか安らかに眠って下さい」と手を合わせるかと思いますが、なもあみだぶつを唱えている人を、護って下さっているのですから、「いつも護って下さり有難うございます」と手を合わせるのが正しいのです。

浄土真宗は阿弥陀仏に救われると言いますが、だからと言ってすべての神々に対して不敬や敵対することは、親鸞聖人は望んでいません。尊敬をもってせつしていれば、神々は喜んで下さるのです。合掌

写真は下鴨神社みたらし祭

